

濟美台遺跡出土祭祀關係遺物



〔指定年月日〕平成九年二月一〇日
 〔種別〕有形文化財(考古資料)
 〔名称〕濟美台遺跡出土祭祀關係遺物
 〔点数〕三二四点
 〔所有者等〕杉並区教育委員会
 〔所在地等〕阿佐谷南一―一五―一

済美台遺跡出土祭祀関係遺物

平成六年度（一九九四）に行われた済美台遺跡の発掘調査により出土したもので石製品二九二点、土製品三二点からなる。

石製品は滑石を用いて作成されており、滑石製有孔白玉、滑石製模造品、滑石製棒状製品に分類される。この中でも多数（二二六件）を占める有孔白玉は滑らかに磨き上げられている。また、概して規格性が高く、計測の平均値は直径約5mm、孔径約一・七mm、厚さ約3mmとなる。模造品は剣と鏡を模造したものとわれている。棒状製品は六点のうち二点が完形品である。

土製品は土製有孔丸玉、土製無孔丸玉、土製管玉、土製勾玉、土製鏡の紐に分類される。丸玉は有孔・無孔を合わせて二七点あり、径6mmから一五mmとばらつきがある。表面が研磨された精製の玉と整形が粗くいびつな玉がある。管玉は一点のみで表面が良く研磨されている。勾玉は三点がいずれも破片である。鏡の紐は一点のみで、貼付していたと考えられる鏡は出土していない。

石製品は一点を除き遺構外から、土製品は住居址及び遺構外から出土している。時期は六世紀中葉から後半と考えられる。

特に、滑石製有孔白玉のまとまった出土は区内では初めてであり、都内でも足立区伊興遺跡について二例目である。

【文化財所在地】

